様式3 **令和4年度 小金井市立小金井第三小学校 自己評価まとめ**

学校教育目標
 ○考える子ども 仲良くする子ども 働く子ども 体をきたえる子ども (○は今年度の重点項目)

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 全教職員が子どもたちのために力を合わせる学校 子どもたち自身が自らの健康と安全を考えながら明るく元気に学ぶ学校
【目指す児童・生徒像】 元気に明るくあいさつをする子ども 友達と仲良く学校生活を送る子ども
【目指す教師像】 自らの授業力を高めようと研究と修養に努める教員 自らの役割と責任を果たし教育活動を支える職員

前年度までの学校経営上の成果と課題
 ①今年度までの3年間、あいさつの励行に取り組み、大多数の子どもたちがしっかりとあいさつができるようになった。今年度も引き続き取り組んでいく。②昨年度開校70周年にかかわって愛校心の醸成や小金井へのふるさと意識の向上の取組を行ったことを今年度も継続する。③新型コロナウイルス感染症への対応が続いている。子ども自身が自分の命や健康、安全を守る意識を高め、態度化・行動化することが求められる。④新学習指導要領の全面实施3年次である今年度は、感染症対策と新教育課程の趣旨に則った授業づくりとの両立をしていかななくてはならない。小金井市教育委員会研究奨励校の1年間の指定を受けたことも踏まえ、昨年度までの実践をさらに進め、ICTの教育活動への活用を推進していく。⑤コミュニティスクールに指定された。組織の立ち上げを円滑に進めていく。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		成果と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
づを成考 く生とえ りか教 し科子 たの供 授の特 業性育	直接対話やタブレットの活用をしながら、児童同士がかわり合いながら学習を進める場面を取り入れるなど、学習活動を充実させる。	4	4	教員アンケート「授業では、子ども同士が何らかの形でかわり合うことを意識して授業づくりをしている」の肯定的な回答は100%であり、すべての教員が意識していることがわかる。また、今年度は小金井市教育委員会の研究奨励校としての指定を受けて授業研究を進めていることもあり、さらに対話やICT機器の活用を進めていく。	4	4	2学期教員アンケート「授業では、子ども同士が何らかの形でかわり合うことを意識して授業づくりをしている」の肯定的な回答は100%だった。2学期学校公開保護者アンケート「子どもたち一人一人の活動が充実していた」の肯定的な回答は97%だった。小金井市教育委員会の研究奨励校の指定を受けて授業実践を重ねた1年間だった。タブレットは道具のひとつであることを踏まえ、子ども同士の直接対話を重視した授業づくりのさらなる推進が必要である。
	タブレットも活用し、児童に考えさせ、主体的に問題解決を図る場面を意図的に設定する。	3	-	教員アンケート「タブレットも活用し、互いに学び合い、考える力を伸ばすように指導した」の肯定的な回答は77%だった。全体的にはICT機器の活用が進んでいるが、まだ十分とは言えない。学習活動でのタブレットを効果的な活用について、授業研究を通して協議を進めていく。	4	3	2学期教員アンケート「タブレットも活用し、互いに学び合い、考える力を伸ばすように指導した」の肯定的な回答は100%だった。保護者アンケート「子どもたちの考える力を伸ばす指導をしている」の肯定的な回答は85%だった。一斉指導だけではなく、タブレットの強みを生かした個別最適な学びを通して考える力を伸ばす必要がある。教員のPCの技能の差を埋めるべく研修を続けていく。
働携の地護 の・連 者 者 の と ク 推 協 と や 保 し	保護者や地域の方、ボランティアを活用した授業を行う。	-	-	コロナ禍のために、地域活動や各種ボランティア活動は一時中断していた時期が長く、ようやく1学期になって順次再開している。評価指標として、設定した項目については12月にアンケートをとることにしている。3年はフォニックスで英語ボランティアとの協働の授業が進められている。	3	3	2学期教員アンケート「保護者や地域の方、ボランティアを活用した授業を行った」の肯定的な回答は82%だった。保護者アンケート「学校は、保護者や地域の教育力を生かして教育活動を行っている」の肯定的な回答は87%だった。コロナによる行動制限がなくなった現在、3年前までの保護者や地域との協働で学校の教育活動を進めていた姿に戻す努力を続けていく。
進教育健 育・康 の安教 推全	毎朝検温し、「健康・生活習慣・ふりかえり記録表」に毎日記入する、休み時間や体育の授業後にうがいや手洗いをするなど、児童が自らの健康を守る取組を実施させる。	4	4	教員アンケート「換気や手洗いなどの感染症予防の取組を徹底するよう指導した」への肯定的な回答が100%、児童アンケート「毎朝検温し、自分からすすんで手洗いができた」への肯定的な回答が94%であり、意識していることがわかる。コロナへの警戒感が薄れている状況があり、引き続き児童が自らの健康を守る取組を進めていく。	4	4	2学期教員アンケート「換気や手洗いなどの感染症予防の取組を徹底するよう指導した」への肯定的な回答は100%、2学期児童アンケート「毎朝検温し、自分からすすんで手洗いができた」への肯定的な回答が94%だった。教職員や児童の毎朝の検温結果の報告はグーグルフォームを活用するなどの改善にも取り組んだ。感染症との闘いは収束方向に向かっているとは言えず、今後も取組の継続を図っていく。
豊かな心 の育成 と体力 の向上	全校朝会時の校長講話の話題として取り上げ、児童へ直接働きかけるとともに、担任が学級指導の中で随時あいさつの大切さについての指導を行う。	4	4	教員アンケート「元氣なあいさつをするよう指導している」の肯定的な回答が95%、児童アンケート「元氣よくあいさつができた」の肯定的な回答が90%であり、両者とも評価基準4をクリアできた。2学期当初は一部の児童があいさつができなくなっていたり、声が小さかったりしたという印象があったが、日を追うごとに1学期の様子に戻っている。	4	4	2学期教員アンケート「元氣なあいさつをするよう指導している」の肯定的な回答が100%、2学期児童アンケート「元氣よくあいさつができた」の肯定的な回答が91%であった。あいさつの指導については繰り返し取り組んだ1年間だった。朝、校門での様子を見てみると9%という数字が実感として理解できる。あいさつができることは社会で生活する上での基本であり、教職員がよいモデルとなりながら今後も粘り強くあいさつ指導に取り組んでいく。
	「その子なりにどれだけ伸びたか」を評価する個人内評価を中心にして、あらゆる学校教育の場面において、児童を褒めて育てることを中心に指導する。	4	4	教員アンケート「認め、励まし、支援することを心掛けている」の肯定的な回答が100%、児童アンケート「自分にはよいところがある」の肯定的な回答は91%であった。校長が校内を見回している中では、大声を出す等の教職員の児童への高圧的な指導場面はなく、よさを認め長所を伸ばす声掛けをしている。残り9%の児童への働きかけ、取組をさらに進めていく。	4	4	2学期教員アンケート「認め、励まし、支援することを心掛けている」の肯定的な回答が100%、児童アンケート「自分にはよいところがある」の肯定的な回答は90%であった。展覧会のテーマを「ワタシとワタシたちのステキ」とし、他者との比較ではなく、作品のよさ、プラス面を鑑賞するように働きかけた。書初め展も比較ではなく、自分の精一杯の力を発揮した作品づくりを呼びかけた。一人一人の成長を中心に個人内評価を重視し、自己肯定感を高める働きかけを継続していく。
	日常の児童観察と学期ごとのいじめアンケートの実施によるいじめの発見と早期に対応して問題の解決を図る。	4	-	教員アンケート「いじめはしない・させない・許さない指導を徹底した」への肯定的な回答が100%であった。これまでも実施していたふれあい月間のアンケートに加えて、毎月のいじめ実態把握など、取組を強化している。なお、成果目標の指標については、12月に実施する保護者アンケートの結果を待つこととする。	4	3	2学期教員アンケート「いじめはしない・させない・許さない指導を徹底した」への肯定的な回答が100%であった。保護者アンケート「学校は、子どもの心に寄り添って温かく接している」への肯定的な回答が86%だった。いじめをなくすためには、子どもの身近にいる担任等の観察と児童理解が不可欠であり、いじめの兆候を把握した場合は、学年主任、生活指導主任、管理職への報告など組織的な対応が必要である。校内委員会や生活指導夕会での情報共有、行動連携を進めていく。
	各学級で外遊びをするように児童へ働きかける。	3	3	教員アンケート「校庭遊びができる休み時間には、外遊びをするよう指導した」への肯定的な回答は76%、児童アンケート「校庭遊びができる休み時間は外遊びをした」に肯定的な回答は80%であった。全校児童が900人を超える現在、全校児童を校庭に出すことへの心配がある。9月27・28日に運営・代表委員会(児童会)の提案で、全校児童で校庭遊びができるかどうか試すことになった。	4	3	2学期教員アンケート「校庭遊びができる休み時間には、外遊びをするよう指導した」の肯定的な回答が94%、2学期児童アンケート「校庭遊びができる休み時間は外遊びをした」の肯定的な回答は81%であった。給食のない4時間授業の中休みは、広い場所をとる遊びを控えるようにして、全校児童が校庭に出ることができるようにした。体力向上のためにも外遊びを推奨していくが、休み時間である以上、一律に「外に出なくてはいけない」とすることも検討が必要である。
心上意ふ のや識 育愛のさ 成校向と	各教科等で学校や身近な地域にある「もの・ひと・こと」を活用した授業づくりを進める。地域や外部の方をゲストティーチャーとして授業に来てもらうなどの取組を進める。	4	4	教員アンケート「学校や身近な地域を活用した授業づくりに取り組んだ」への肯定的な回答が94%、児童アンケート「小金井やこのまちがすき」に肯定的な回答が95%であった。昨年度開校70周年の取組の中で、身近な地域にある「もの・ひと・こと」を活用した授業づくりをした成果が今も生きている。	4	4	2学期教員アンケート「学校や身近な地域を活用した授業づくりに取り組んだ」への肯定的な回答が95%、2学期児童アンケート「小金井やこのまちがすき」に肯定的な回答が96%であった。地域は教材の宝庫である。子どもたちにとってかわりが深く、共通の体験ができる地域の教育資源「もの・ひと・こと」を活用した授業づくりを来年度以降も続けていく。
育別向の共 の支 援 実 現 充 援 現 社 実 教 特 に 会	定期的に特別支援教育校内委員会(連携)を開催し、学級担任と巡回指導教員との情報連携ができるようにする。	4	-	特別支援教育校内委員会(連携)を計画通り1回開催している。臨床心理士の助言を得ながら、対象児童についての情報共有や今後のかわり方の共通理解を図ることを今後も続けていく。大空教室の教員が昨年度から1名減って4名体制になったこともあり、大空教室の空きを待つ児童が複数いる状況になっている。	4	3	保護者アンケート「学校は、子どものことについて連絡・相談したい時に適切に応じてくれる」の肯定的な回答が88%であった。市のスクールカウンセラーの面談希望が多く、保護者や子どもの悩みの相談に応じている。悩みの解消や問題の解決に至ることができたケースも多かった。大空教室の教員との校内委員会(連携)も定期的に開催できた。来年度も継続していく。